

# 市田柿のせん定

下伊那農業改良普及センター

## 1 樹の特徴

- (1) 樹齢が長く大木になる。
- (2) 結果習性は結果母枝型。花芽は先端から2～4芽の充実した芽につく。
- (3) 放任樹では隔年結果しやすく、表年と裏年を繰り返す。
- (4) 日光が十分に当たれば古く太い枝の陰芽からも新梢が発生する。
- (5) 枝は非常に裂けやすいため、発生角度を広く取る。
- (6) 傷口の癒合が悪く、腐り込みやすい。

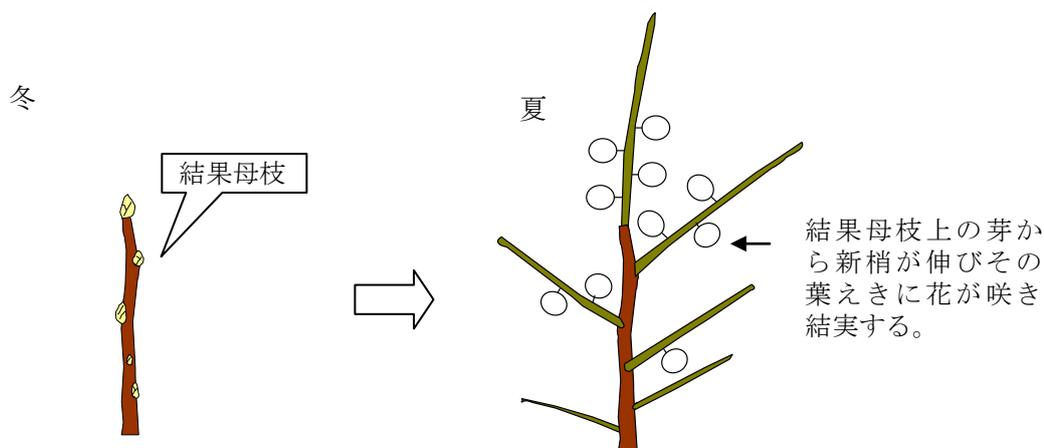


図1 かきの結果習性（結果母枝型）

## 2 目標樹形

最終的な目標樹形は、主枝4本で構成する変則主幹形。若木時代は主幹形とし徐々に変則主幹形へと移行する（立ち性の強い市田柿はこの方法での樹形づくりが容易）。

その他、苗木の切り返しを強く行い（地上50cm）、低い位置から4～5本の主枝を確保し、当初から開心形に仕立て、成木時に3～4本の主枝を確立する開心形で低樹高栽培を行っている優良事例もある。

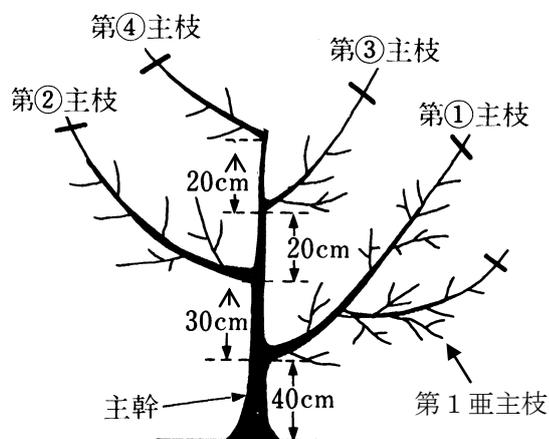
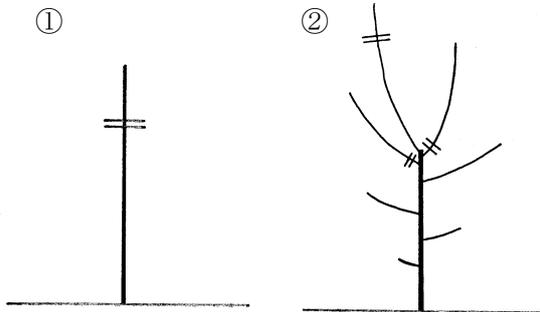


図2 変則主幹形



図3 松村式開心自然形（松村氏原図）

### 3 主幹形から変則主幹形へ

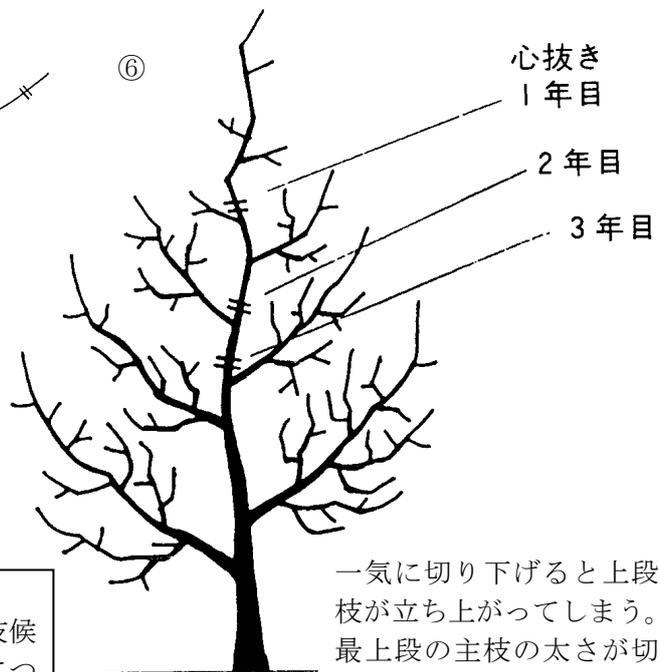
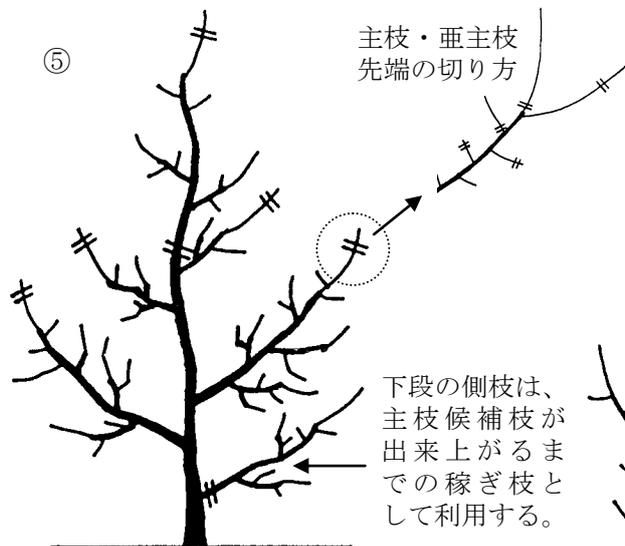
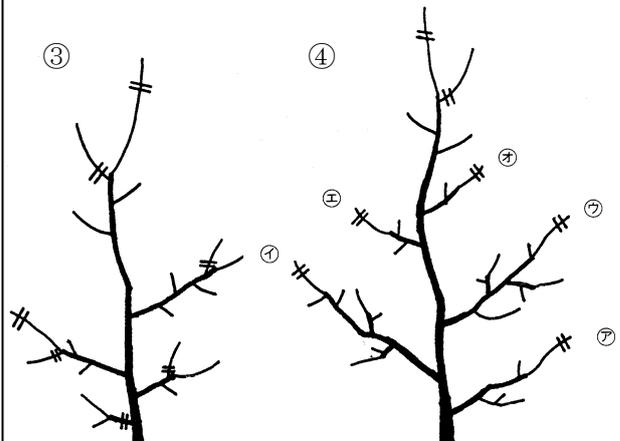


#### 定植1～2年目のせん定 (①・②)

- 定植時は地上80～100cmを目安として充実した芽の上で切り返す。
- 2年目は先端に発生した2～3本の強い新梢の中から最も強い枝を残し、先端から1/3～1/4を切り返す。この枝と競合しそうな発生角度の狭い枝は除去する。
- 横向きに出た枝はできる限り残し、葉面積を確保する。

#### 3～5年目 (③・④)

- 主幹の延長部分は、2年目と同様に強いものを残し先端の先刈を行う。
- 発生角度の広い枝を主枝候補枝として育成する。延長枝先端は1本に整理し、軽く先刈をする。
- 発生位置・角度・方向など考慮して、生育が順調ならば5年目くらいまでに4本の主枝候補枝を決定する(右図①・②・③・④)。
- その他の側枝は、主枝候補枝に影響が無い限りできるだけ残す。



#### 6年目以降 (⑤・⑥)

- 主枝を延長させながら、必要により亜主枝候補枝を育成する。亜主枝の本数は1主枝につき1～2本とし、第1亜主枝の位置は主幹から1.5m以上離れた位置を目安とする。
- 7年目以降、最上段の主枝が決まったら序所に心抜きにかかる。一気に切り下げないで3年以上かけて順に切り下げる。

一気に切り下げると上段主枝が立ち上がってしまう。最上段の主枝の太さが切り落とす主幹の太さより十分太ってから切り落とす(切り口が大きいと、切り口から腐りが入り、主枝が折れる原因となる)。

図4 変則主幹形の樹形の作り方

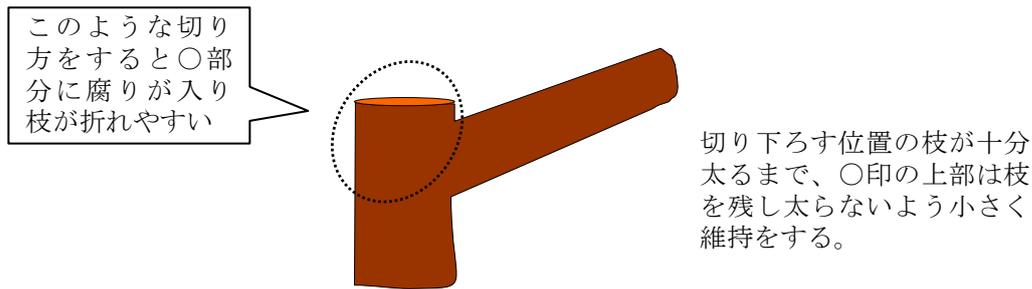


図5 切り下ろしの悪い事例

#### 4 成木期のせん定

##### (1) 主枝・亜主枝の扱い

- ・ 主枝・亜主枝の先端は1本に整理し、真っすぐ立たせる。残す枝は先端を軽く切り返す。
- ・ 骨格枝（主枝・亜主枝）の先端は、結果母枝を間引くなど結実量を少なくして垂れ下がらないようにする。
- ・ 主枝や亜主枝の先端が弱まり下垂した場合は、途中から発生した強い枝に更新する。



図6 下垂した骨格枝先端の更新方法

##### (2) 側枝の扱い

- ・ 側枝は、主枝・亜主枝とは強さに差をもたせ、長大化しないようにする。
- ・ 骨格枝（主枝・亜主枝）上の側枝は図5のように骨格枝先端を頂点とした二等辺三角形に配置するが、亜主枝上では基部に大きな枝を置かず、ちょうど葉型になるようにする（図5）。
- ・ 日光が届かないふところの枝には、新梢が発生せず枝も枯れ易いので、長大化してふところを暗くしている大枝は整理し、樹全体に満遍なく成り枝が確保できる樹形を保つ。
- ・ 結果母枝は15cm程度の太短いものよいので、このような結果母枝で揃えられるように樹勢を調整する。
- ・ カキの結果部位は、ほっておくとどんどん先に逃げ基部ははげ上がってしまうため、適度に切り返しを行う。しかし、過度の切り返しは二次伸長が多くなり、樹勢が落ち着かず生理的落果多発の原因となるので樹勢に応じた切り返しを心がける(図6)。
- ・ 樹勢は二次伸長枝の発生割合や、落葉前の葉の大きさ、主枝・亜主枝からの徒長枝の発生量などにより判断する。
- ・ 下垂した側枝の結果母枝は弱く、結実した果実は肥大が劣るため切り上げて結果母枝が弱らないようにする。
- ・ 必要により予備枝を設けて側枝を確保する。前後に側枝がなければ直上に発生した新梢でも予備枝とし、一年後に横方向に発生した結果母枝まで切り下げ枝を確保する。

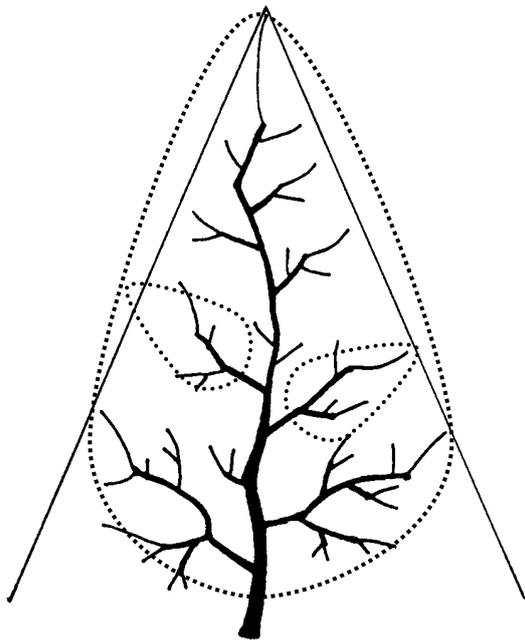


図7 側枝・垂主枝上での側枝の配枝  
葉型をイメージする

○の位置まで切り返しは樹勢のコントロールが難しくなる

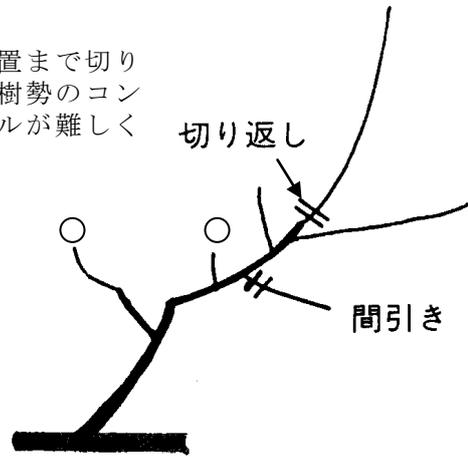


図8 結果母枝の残し方



図9 長く垂れ下がった側枝の切り上げ

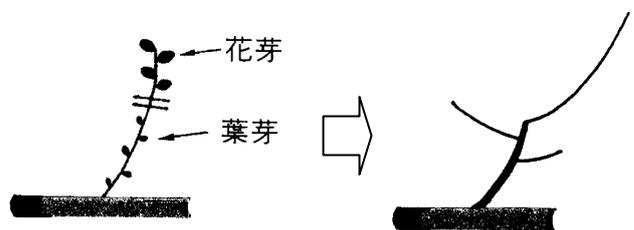


図10 予備枝のとり方

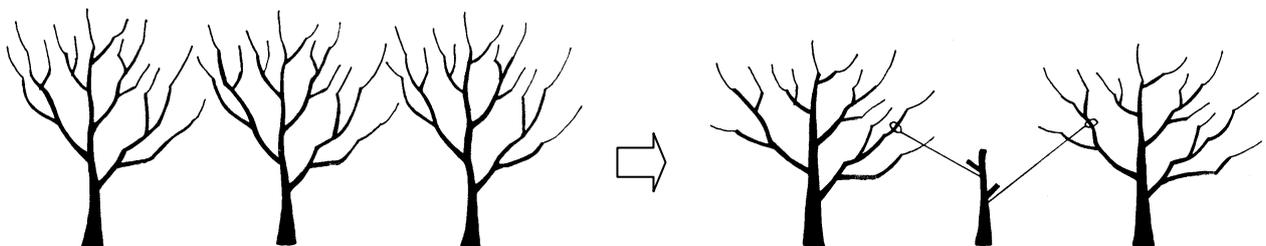


図11 間伐による樹形改善